

# 国語選抜試験

模範解答

■採点基準  
記述式問題では、同意表現は可。書きぬぎの場合のみ、正答例以外は不可。

新小四

一 次の——線の読みを書きなさい。

- (1) 温かなもてなしを受ける。  
あたりの気配をうかがう。
- (2) 外国の大使に会う。  
雨でも遠足を決行する。
- (3) 学校での出来事を親に話す。

(1) あた た (かな)

(2) た い し

(3) で き ご と

(4) け は い

(5) け っ こ う

二 次の——線を漢字で書きなさい。

- (1) エプロンをつける。  
のうさくぶつが豊かだ。
- (2) びょうそく五mの風。  
かわいいようふくを作る。
- (3) ひょうざんがとける。

(1) 着 (ける)

(2) 秒 速

(3) 氷 山

(4) 農 作 物

(5) 洋 服

三 次のそれぞれの問いに答えなさい。

- 問一 次の言葉をローマ字で書いたとき、最もふさわしいものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。  
京都(都市の名前)

- ア Kiyouto  
イ Kyōto  
ウ kiyouto  
エ kyōto

(2) 切手

- ア kitute  
イ citute  
ウ kitte  
エ cite

- ① (1) 人の名前や地名は、はじめの字を大文字で書きます。のばす音や「よう・ゆう」などは「へ」(のばすしるし)を使って書きます。  
(2) 「っ」(つまる音)はすぐあとにつづく文字をかさねて書きます。

(1) イ

(2) ウ

問二 次の——線の「やく」は、国語辞典では、どのような意味でのついていますか。最もふさわしいものを、ア～オからそれぞれ選びなさい。(同じ記号は二度選べません。)

- (1) かまで茶わんをやく。  
ごみをやく。
- (2) ア 火をつけてもやす。  
エ 面どうをみる。

- イ 日光で赤くする。  
オ 火の熱を加えてものを作る。  
ウ 火を当てる。

(1) オ

(2) ア

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

なつのきた山

みずかみかずよ

まい日みている山なのに

今朝けさはなんだかまぶしいな

ざんざん雨が洗あったか

ぴかぴか  がみがいたか

一本一本の木たちが

ゆびのさきまですつきりなつて

こいところ

うすいところ

みどりのいろもはつきりみせる

——おーい と手をふれば

——どーれ と腰こしをあげて

山はいまにも

あるきだしそうだよ

問一 この詩でよまれているのは、いつの季節きせうですか。最もふさわしいものを、ア～エから選えらびなさい。

ア 春のはじめ      イ 夏のはじめ

ウ 秋のはじめ      エ 冬のはじめ

① 題名の「なつのきた山」や「みどりのいろもはつきりみせる」などから、「夏のはじめ」とわかります。

イ

問二 詩の中の  にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選えらびなさい。

ア 風      イ 雪

ウ きり      エ いなずま

① 直前に「ぴかぴか」とあるので、光るものを選びます。

エ

問三 ——線「山はいまにも／あるきだしそうだよ」とありますが、これは山のどのような様子を表していますか。最もふさわ

しいものを、ア～エから選えらびなさい。

ア 山に強い風がふきつけている様子。

イ 山を夕日がたがっている様子。

ウ 山が力強い命にあふれている様子。

エ 山が目の前に立ちふさがっている様子。

① 山が「腰こしをあげて」「あるきだしそう」にしています。山を人のようにたとえることで、生き生きとした様子を表しています。

ウ

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

遠くかすかに、海なりがきこえています。海を見おろして、ゆるやかにひろがる山すそは、見わたすかぎりいちめんのコスモスの花――。晴れわたった秋空の下で、海風にゆれています。

①「ピヨピヨー、ピヨピヨー、ピヨピヨー……。」

ミヨは、さつきから海にむかって、指笛をならしています。

「あーあ、とうちゃん、はやくかえってこんかなあ。」

②「うすもも色の花かげがゆれます。ねむたくなるような羽音をたててあそぶ、アブやミツバチたち。」

「つまらんよ、ひとりぼっちじゃ……。」

ミヨは、うずくまってひざをかかえました。ミヨのおとうさんは、魚をとる船にのっているのです。もう、三月もかえっていません。

近くの海は、このごろめつきりよごれてしまつて魚がとれないのです。しかたがないので、③遠く南の海まででかけていつて、漁りよをしているのです。

みさきのむこうに、大きな石油のコンビナートができたところから、青い海は、すこしずつよごれていきました。

「ちつ、④まるで軍艦ぐんかんのようなたてもんや。すかんのう。」

かあちゃんは、物ほし台に立って、⑤いつもおこつたようにいいいます。

コスモス畑に、すずしい秋の風がふいて、ミヨは、つい A と、ねむりこんでしまいました。

あわいはい色のかげをおとして、雲がとおりすぎていきます。

とつぜん、野バトが、

「キキキッ！」

と、羽をならして、とびたちました。と、せわしくざわめく花たち。

「うっ……！」

目をさましたミヨのひとみのなかで、コスモスがはげしくゆれています。そのむこうに、なにやらまっ黒いかたまりが、

B とふくれあがりました。

(堀野慎吉「コスモスの海で」より)

(注) コンビナート――いくつかの工場が集まつて協力し合っているもの。

問一 文中の A・B にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア〜カからそれぞれ選びなさい。

ア とほとほ イ ぶくぶく ウ むくむく

エ うとうと オ めらめら カ へなへな

A エ

B ウ

① A は直後の「ねむりこんでしまいました」から、B も直後の「ふくれあがりました」から考えます。

問二 ――線①「ピヨピヨー、ピヨピヨー、ピヨピヨー」とありますが、これは何の音ですか。文中の言葉を使って、五字以内で書きなさい。

きなさい。

①直後で「ミヨはく指笛をならしています」とあります。

(例) 指 笛 の 音

問三 ――線②「うすもも色の花かげがゆれます。ねむたくなるような羽音をたててあそぶ、アブやミツバチたち」とありますが、ここからどのような様子がわかりますか。最もふさわしいものを、ア〜エから選びなさい。

ア さわがしい様子。

イ ものさびしい様子。

ウ あやしげな様子。

エ のどかな様子。

エ

①「ねむたくなるような羽音」から考えます。

問四 ――線③「遠く南の海まででかけていつて、漁をしているのです」とありますが、ミヨのおとうちゃんが遠く南の海まででかけなければならぬ理由が最もよくわかる一文をさがし、初めの五字を書きなさい。

近 く の 海 は

問五 ――線④「まるで軍艦のようなたてもんや」とありますが、それは何ですか。文中から十二字で書きぬきなさい。

大 き な 石 油 の コ ン ビ ナ ー ト

問六 ――線⑤「いつもおこつたようにいいいます」とありますが、ミヨのかあちゃんがおこつたようにいうのは、そのたてものの形がきらいだからというほかに、どのような理由が考えられますか。文中の言葉を使って、くわしく書きなさい。

(例) 大きな石油のコンビナートができたところから、青い海がすこしずつよごれて、魚がとれなくなつたから。

①石油のコンビナートができたために、海がよごれ、とうちゃんは遠く南の海まで漁に行かなければならなくなりました。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

埼玉県さいたまけんの田島ケ原たじまがはらに自生するさくらそうは、たねができていくことがわかりました。たねからふえなければ、やがてかれてしまうおそれがあります。

なぜ、田島ケ原のさくらそうには、たねがなかなかできないのでしょうか。

昭和六十二年しやうわの春、わたしたちは、田島ケ原のさくらそうの受ふんの様子を、四台の映画用えいがのカメラでさつえいしてみました。さくらそうは、午前五時の日の出より少し前にさき始め、午前九時ごろから花びらがかんぜんに開きます。そして、ほとんどの花が、一週間以上いっしゅうも美しくさきつづけます。こん虫はごくまれにやってきましたが、みつをもとめて花から花へとどびかうすがたはありません。花を採集さいしゅうして調べた結果けつこ、ちがった二種類しゆゆいの花の間の受ふんは、全くといってよいほどAことがわかりました。

そこで、ちがった二種類の花の間で人工受ふんをしてみることにしました。B、数日で花がしぼんでしまい、C、それぞれの花に数十つぶのたねが実りました。

次の年、わたしたちは、長野県ながのけんの野辺山高原のべやまにあるさくらそうの自生地じけいに出かけ、同じようにカメラを使って受ふんの様子を調べました。すると、田島ケ原とは全くことなり、ここでは、午前五時から午後一時までの間に、ハナアブやハナバチなどのなかまが、一つの花につき平均約へいきんやく四回、最高さいこうでは十一回もみつをもとめてとんできたのです。そして、こん虫の来た花を採集して調べてみると、ちがった二種類の花の間でよく受ふんが行われていることがわかりました。

田島ケ原のさくらそうにたねができていく理由は、これではつきりしました。受ふんをしてくれるこん虫たちが、ほとんどやってこないためだったのです。

田島ケ原のさくらそう自生地は、昭和二十七年てんねんきねんがう(一九五二年)には国のとくべつ天然記念物てんぜんきねんぶつに指定され、大切に保護されてきました。しかし、そのしゅういでは開発が進められ、いつしか、こん虫たちのすみかがうばわれてしまっていたのです。

(注) 生井兵治なまいひょうじ「さくらそうの保護」より

(注) 受ふん—花ふんがこん虫の体について運ばれ、ほかの花のめしべにつくこと。そうすることなたねができる。ちがった二種類の花—さくらそうの中の、二種類の花。人工受ふん—人間の手で受ふんしてやること。平均—大小の数があるうち、中間の数。

問一 さくらそうの様子を、時間をおつて説明した次の文の□ a・bにあてはまる言葉を、文中から四字でそれぞれ書きぬきなさい。

・田島ケ原のさくらそうは□ a □ころからさき始め、□ b □ころから花びらがかんぜんに開く。

①「昭和六十三年」とある段落に注目します。 □ a □午前五時 □ b □午前九時

問二 文中の□ Aにあてはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア 行われていない
イ いつも行われている
ウ 行われている
エ たまには行われる

①直前の「全く」は「くなくない」という言葉をみちびきます。 □ a

問三 文中の□ B・Cにあてはまる言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを、ア～エから選びなさい。

- ア B…または C…やがて
イ B…まるで C…かなり
ウ B…かなり C…そこで
エ B…すると C…やがて

□ e

問四 —線①「長野県の野辺山高原にあるさくらそうの自生地」とありますが、ここが田島ケ原の自生地と大きくちがっていたのは、どのようなところですか。次の文の□ I・IIにあてはまる言葉を、文中からIは九字で、IIは七字でそれぞれ書きぬきなさい。

・ I □などが、II □花にとんできたところ。

①直後の文に注目します。 □ I □ハ □ナ □ア □ブ □ヤ □ハ □ナ □バ □チ □ II □み □つ □を □も □と □め □て

問五 —線②「田島ケ原のさくらそう自生地は、昭和二十七年(一九五二年)には国のとくべつ天然記念物に指定され、大切に保護されてきました」とありますが、保護されてきたのに、こん虫たちのすみかがうばわれたのはなぜですか。その理由を文中の言葉を使って書きなさい。

①直後の文に注目します。(例) 田島ケ原のしゅういでは開発が進められていたから。

問六 —線「なぜ、田島ケ原のさくらそうには、たねがなかなかできないのでしょうか」とありますが、この問いかけに対する答えをのべている部分を、文中から二十八字でさがし、初めと終わりの五字を書きなさい。

①「田島ケ原のさくらそうにたねができていく理由は」の段落に注目します。 □ 受 □ ぶ □ ん □ を □ し □ く □ こ □ な □ い □ た □ め □ 完